

講演 以倉紘平氏 現代詩と私詩の原点について

(以倉紘平氏御自身による講演要旨)

商業詩誌を賑わしている詩作品の多くは、一人よがりや難解な修辭あるいは時代の通念だけがあつて、生きた人間がないという感じだ。

故吉本隆明氏は、わが国の戦後詩は「生活の現実の場それ自体に意味」を失ったところから発している。現実の場から修辭的な場へ意味を移しかえようとする無意識の願望がある。」と述べ、このような詩の中味は「無」だと痛烈に批判した。

短篇小説の名手だった故阿部昭氏は、短編の作法について「あるがままの人生。長い熟視。ひそやかな感動の声。」と言ったが、この言葉は、詩の作法にも通じると私は思う。

西脇順三郎氏は「人間の存在の現実それ自身はつまらない。この根本的な偉大なつまらなさを感じる」ことが詩的動機である。」と述べられた。しかし私は夜学の教師だったので、現実がつまらないといわれながら夜学の教師は務まらないと思つた。

氏は「連想上の関係が遠い二つのもの」の連結の面白さの魅力を描かれた。ロートレアモンの「手術台の上のミシン」とコウモリ傘の偶然の出会いの美しさのような詩句が該当するかと思うが、私は言葉と言葉の「偶然」の出会いを魅力的とは思ふが、例えば神戸の大震災後、新聞に掲載された言葉、「土砂に埋まつて／最後まで指と指しかふれられなくて／息子はありがとうと言いました／この春大学卒業だった」の作者不詳の言葉にも深い感動を覚える。読んだ当初は「へー」という言葉の意味を思つて涙したが、時が経った今になって、息子の指、愛するものの最後の指の感触を思うようになって、現実、熟視すればするほど深まると思つた。

正岡子規記念館で発言された女優の真野響子さんの言葉が印象に残っている。病床の子規を慰めるため、虚子が、つがいの鶴を送ったが、片方が死んで

しまつていかにも寂しそうな鶴を写生した子規の絵が残っている。なんとその絵にはもう片方が描かれていたというのだ。真野さんはこの絵を見て、子規の写生の本質がわかつたと言われた。子規は残された鶴の心まで写し取つたのである。これが子規のアリズムの本質だと喝破された。梶井基次郎の「櫻の木の下には」も、美とは何かという必然の論理に導かれた幻想詩である。

たぐさんの感想を頂戴したので、講演に関する部分だけを抄録します。

★資料も詩あり、短歌あり、資料づくりがとてもよかつた。内容も聞きたいことに一致して、充実感を感じた。自分の詩はしみじみと恥ずかしくなつた。

★詩は心を書くものだと分かり、とても勉強になりました。これからは出来る限り関西詩人協会のイベントに参加したくさん学びたいと思ひます。

★修辭に傾く現代詩に、真の「人」をヒューマンに入れよ というお話興味深くまた、若干反省もしながら拝聴しました。

★とても判りやすく、引用の詩も佳い詩ばかりで、感動的で、とても心に残りました。

★詩の講演であまり感動したこともなかつたですが、今回はぐつとききました。レンズのむこうに見える以倉さんは、お話の最後の方で涙ぐんでおられました。きつと娘さんがそこにおられたのでは。

★話はよくわかつて良かった。さすが学校で教える方で、訴え方がよく伝わっていた。

★難しい詩は苦手です。それが、ほどかれていくよ

うでした。刀根山養護学校の生徒たちの作品に感動しました。もつと一般の多くの人にも、本物の詩を届けていけたら……そんな気持ちに駆られました。

★講演も興味深い内容でしたが最後時間切れで、リ

アルと詩についての境界また共存性についても少し聴けるとよかつたかなと思います。



★新しい気付きと関心をも深めました。いろいろと勉強になり、人のお話を聞くついでに改めたい思ひました。

★よかつたですよ。「事実を述べる」ことがアリズム」ではないとの言葉が、一番印象に残りました。

★詩論が盛り込まれてあつて良かった。

★詩の原点に「感動」を置くことがよかつたです。現代詩にも完成度をやましく言つてゆくことが大切と思ひます。又現代詩の暗喩などの、書き方の分

かり易さは少年詩から来た私には嬉しかつたです。

★理性と感性の両方に訴えかけられ、それが心にとんとん響く素晴らしいお話でした。詩を書き始めよ

うと先ず読み始めたものの、難解な詩も多く、こりや無理やと思うことも……そんな時に以倉先生のお話を聴くことができたのです。震災で息子さんや亡く

された方の詩、正岡子規のつがいのうづら、みずうみ、そして 戦士たちの歌「刀根山養護学校生徒た

ちの詩：先生のお話は優しく、しかしたたみかけるように優しく、私の胸にも迫ってきました。死や愛

は言葉でおさまらないから詩がある……心の感動を写す真のアリズム：眼から鱗、霧が晴れるようでした。この時期に、まさに詩の原点のお話を聴けたこ

とは、何と幸運でしょうか。

記憶と記録のDVDを作りました。総会当日の記録一枚と、講演だけを一枚の二枚を作りましたが、次はそれを観られての感想です。

★当日会場でお聞きした記憶が、しっかりと正確に理解できました。本当に嬉しいです。以倉さんのお人柄が素晴らしい。私にとつての好ましいお人柄の見本です。現代詩の捉え方が人間の優しさに溢れた方だと思ひました。講演の趣旨もわたくしのなんと

なく思つていた事を明確に引き出してもらえたよ

うな気がします。特に、以前から感じていた、レトリ

ックの疑わしい技術性をしっかりと指摘してもらつた

事は何よりの成果でした。

(文責 永井ますみ)